

3月23日(土)に鳥取自動車道が開通！
名古屋から4時間30分!!

ぐんと近くなった

鳥取へ!

鳥取県東部を縦断する高速道路「鳥取自動車道」(鳥取道)が、いよいよ全線開通します。名古屋方面からのアクセスは50分短縮され、所要時間(「宮IC」～鳥取IC)は約4時間30分に！沿線の観光地やグルメを紹介しつつ同県内を「路北」へ向かう、「鳥取ドライブ」のスタートです。

しっとり町並み散策、ゆったりティータイム

中国自動車道の佐用JCT～鳥取ICを結ぶ約60kmの鳥取自動車道は、通行料が無料。高速代を気にせず乗り降りできるとなれば、寄り道をためらうこともありません。目的地は大まかなポイントだけ決めて、あとは窓越しの景色と気分に合わせてみてはどうでしょうか。



(写真左上から時計回り) 国重要文化財・石谷家住宅の土間 / 純米吟醸無ろ過生原酒「梶屋の酒」(720ミリリットル1500円)を手に、笑顔の井上さん / ココガーデンの「木苺のパンケーキ」(ドリンク付き980円)



今回の「鳥取ドライブ」で最初の目的地に選んだのは、江戸時代に鳥取藩最大の宿場町として栄えた智頭(ちづ)町。車を止め、まずは「石谷家住宅」を目指します。約3000坪の敷地、池泉回遊式日本庭園を中心に配した40の部屋など、近代建築技術の粋を伝える歴史的建造物は、文字通り豪壮なたたずまい。約14mの吹き抜けに巨木の梁(はり)組がむき出しの土間は、特に圧巻です。

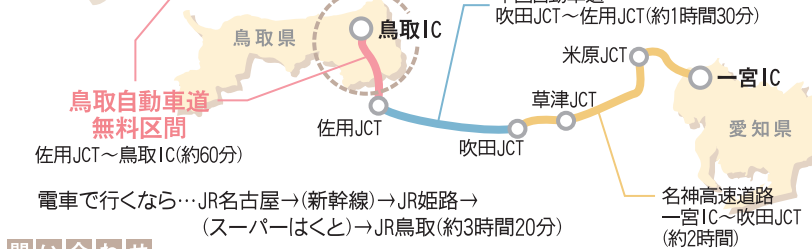
古い町並みを歩いていると杉玉が目につきます。新酒が出来たことを知らせる目印も、ここでは林業の街のシンボルとして民家にも掛かっています。そんな往来でひと際大きな杉玉を掛けているのが、諏訪酒造。漫画「夏子の酒」にも登場する酒は同社の井上章子さんいわく、「無ろ過で使える超軟水の仕込み水が自慢です」。数ある銘酒から、酒屋に卸していない生原酒「梶屋の酒」を智頭土産にしましょうか。

一息入れるなら、河原(かわはら)ICを降り八頭(やず)町の大江ノ郷自然牧場ココガーデンへ。看板メニューは無添加のパンケーキ。取れたての自家製卵・天美卵を使ったフワフワ食感を楽しんで。



道の駅かわはら
鳥取道のサービスエリアの機能をも果たす道の駅「清流茶屋かわはら」は、河原ICの程近く。「おやすみ処」と名付けられた量の休憩所、運転の疲れを癒やして。土産物は充実、神話「因幡の白兔」にまつわる縁結びコーナーもあります。

ココも押さえておきたい!!
見て、触れよう **とっとり賀露かっこ館**
カニが主役という、鳥取ならではのミニ水族館です。世界のカニが展示され、海の生物に触れる水槽も。同県の農畜産物の直売所「わったいな」と賀露港で水揚げされた魚介が買える「かろいち」と同じ「マリンピア賀露」内にあります。



問い合わせ
ふるさと鳥取県産業・観光センター
住所 / 中区栄4-1-1中ビル4階 電話 / 052-262-5411 <http://www.pref.tottori.lg.jp/nagoya/>

ソウルフードとご当地グルメのち砂像鑑賞

山の緑や合間に顔をのぞかせる民家を横目に、さらに車を走らせませす。鳥取市に入っただけで、鳥取道沿いにあるのは「とうふちくわの里ちむら」。豆腐と魚のすり身を合わせた鳥取のソウルフードは、丸かじりが地元流とか。



(写真右上から時計回り) 「りき」のホルモンそば(700円) / 「ちむら」のとうふちくわ(160円)と、あごちくわ(300円) / 砂像はライトアップ展示される(写真は過去の展示)

鳥取砂丘を目前に、はやる気持ちを抑えて腹ごしらえです。例えば「ホルモンそば」は、ホルモンと中華麺をみそダレで味付けた話題のご当地グルメ。半世紀近く受け継がれたタレを使う「りき」をはじめ、同市内の焼き肉店などで味わえます。

鳥取砂丘と併せて行きたいのが、砂像展示専門の「砂の美術館」です。鳥取道沿い、その場所だけの景色の中に身を置けば、目的地は道すがらにいくらでも見つかる「鳥取ドライブ」。帰路はどこへ行きましょうか。

4月20日(土)からは東南アジアにスポーツを当て、「王朝の栄華とよみがえる神秘の国々」と題して展示(11面に入館券プレゼントあり)。屋内で見られるので天候の心配は無用です。

中日新聞社発行「ショッパー」掲載(2013年3月21日号)